

佐賀駅周辺整備調査特別委員会

令和2年11月16日(月)

午前10時00分～午前11時33分

議会第1会議室

【出席委員】山下伸二委員長、永渕史孝副委員長、中村宏志委員、御厨洋行委員、
富永明美委員、宮崎 健委員、白倉和子委員、福井章司委員、
重田音彦委員、平原嘉徳委員、嘉村弘和委員

【欠席委員】なし

【委員外議員】山下明子議員

【執行部出席者】武藤佐賀駅周辺整備構想推進室長
ほか、関係職員

【案 件】

・佐賀駅周辺整備関連事業に関する諸種調査

○山下伸二委員長

それでは、ただいまから第7回佐賀駅周辺整備調査特別委員会を開催いたします。

本日の次第につきましては御手元のほうに配付をさせていただいておりますけども、まず、執行部のほうから、佐賀駅周辺整備事業について、その他も含めて6項目報告を受けまして、その後、質疑応答をさせていただきいただきます。

2項目といたしましては、今後の委員会の開催等について皆さんにお諮りしたい事項がございますので、委員間討議を行いたいと思っております。

3番その他ですけども、先週金曜日でしたか、再発送させていただきました特別委員会の招集の文書にもつけておりましたけども、先般行いました先進地視察について簡単な振り返りを行いたいというふうに思っておりますのでよろしく願いいたします。

それでは、まず、佐賀駅周辺整備事業について、6項目まとめた御報告をお願いいたします。

◎佐賀駅周辺整備事業について 説明

○山下伸二委員長

それでは、その他も含めまして6項目、執行部のほうから御報告をいただきましたので、質疑につきましては、それぞれ区切って行いたいというふうに思います。

まず1番目、佐賀駅南口暫定駐車場の運営状況について、委員の皆さんからの御質疑を受けいたします。

特にないですか。

前回も聞いたんですが、もう1回確認です。

損益分岐点はいくらでしたか。

○池田佐賀駅周辺整備構想推進室副室長

600万円から700万円ぐらいが損益分岐点になってくるというふうに思います。今若干ちょっと、10月で590万円ぐらいなんですか、もう少し、700万円近くまで行くと、何とかペイできるのではないかなというふうに思っております。

○山下伸二委員長

分かりました。

○御厨委員

こちらは月極の契約とかもあるんですか、どうでしたかね。

○佐賀駅周辺整備構想推進室参事兼推進係長

月極という形ではなくて、時間貸しの駐車場ということで運営をしております。

○山下伸二委員長

よろしいですか。

(「ほかも」と呼ぶ者あり)

ほかじゃないですよ。

(「駐車場だけ」と呼ぶ者あり)

1番の駐車場だけです。

よろしいですか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

それでは2番目の旧西友駐車場敷地の開発について、皆様からの御質疑をお受けいたします。

○福井委員

3社のプロポーザルということで、日本総研ということで決まったということですが、日本総研という会社がどういう会社なのかよくわからないので、その辺の内容の御説明と、具体的な委託される中身の部分をもう少し丁寧に説明いただきたいと思います。

○佐賀駅周辺整備構想推進室参事兼推進係長

日本総合研究所っていう会社は、三井住友系列、SMBC系列のシンクタンク系の会社になります。実績としましては、同様な公有地の開発ですね。敦賀駅前ですとか、大津市の競輪場跡、そういった多数の開発実績も有していらっしゃいます。

委託する業務に関しましては、下のほうに想定スケジュールがございます。これは、すいません。説明がちょっと、実は先週末に契約に至りまして、その関係で契約額とか、契約日っていうのを記載できておりませんでした。契約日につきましては11月12日、契約額につきましては1,998万7,000円となっております。

今後、お互いの持っている情報なども共有しながら、こういうスケジュール的なものもさらに精査していくことになっていきますが、大きく、このスケジュールのイメージで申し上げますと、年内にはお互いが持っている情報を出し合いながら、スケジュール等も整理しつつ、こ

の土地利用に関しますいろんな法的条件とか、そういったことを整理して、佐賀市としてどういった開発を進めたいかというところを整えます。

そういったものを踏まえましてヒアリングを重ねていくわけですが、ヒアリングをしながら、開発事業者、実際に事業に参画していただくような開発事業者の意見を聞いてですね、佐賀市が希望するところと現実的に開発が進むというところの両方の接点みたいなものを探っていきながら、最初に整理した佐賀市の希望というのを、少し変更するところがあれば変更していくと。そういったことを重ねていきながら、最終的には、公募に至るための書類作成といったところになってまいります。

ですから、事業者のほうには、いろんな法的な観点からの助言をいただいたりとか、実際に事業者のヒアリング、事業者が持っているようなネットワークを使ったり、私どもがサウンディングした相手だったりとのヒアリングになってまいりますので、そういったところの支援、それと、事業者ヒアリングを経て、どういったような開発条件を整えていこうかっていうところの助言、整理、そういった業務。それと、実際に書類に落とし込んでいくところ、そういったところになりますと、今度は法的な面でも大丈夫かどうかっていったあたりも含めまして、支援を受けながら進めていきたいというふうに思っております。

○重田委員

そしたら、委託業者は日本総研ということ、金額は幾らなんですか。

○佐賀駅周辺整備構想推進室参事兼推進係長

1,998万7,000円となっております。これは税込みの金額です。

○山下伸二委員長

よろしいですか。

○白倉委員

そうしましたら、恐らく、地元じゃなくて、全国展開しているところになるだろうっていうふうな方向は以前にも聞いたんですが、3社応募されてですね、この日本総合研究所に至ったところですね。何がほかの2社と比べて、すぐれていたのか。恐らくプロポーザルですから点数形式で評価されていると思うんですが、そのあたりをお願いいたします。

○佐賀駅周辺整備構想推進室参事兼推進係長

プロポーザルにあたりましては、いろいろな、さまざまな評価項目を設けて審査しているわけですが、傾向としましては、全般的に、この日本総研のポイントが高かったということがございます。満遍なくどの評価項目でも得点できていたわけなんですけども、他の2社に比べますと、他の2社は一般的な手順を踏まえたような提案でございましたが、そういったところの一般的な提案にとどまらずに、具体的な内容まで説明を、プレゼンの中でもされていたと。例で申し上げますと、公有地、佐賀市が取得する土地を含めたところの開発になっておりますので、そういった公有地の開発に関する官民リスク、こういったことの方担、整理もどうやっていこうかというところも、提案、それぞれされておりましたけども、他社の

ところで申し上げますと、一般的な例を紹介しますとか、そういったことが多かったんですが、こちらの会社になりますと、類似事例を含む契約書を提示して市の判断を支援していくと、もう一步踏み込んだような内容がございました。こういったところが、各項目においてちょっと踏み込んだ内容があったというところが、得点につながったのではないかというふうに受けとめをしております。

○白倉委員

分かりました。

要するに、総合評価で点数方式でいったわけですか。そしたら、恐れ入りますけれども、この日本総合研究所は何点満点中何点——ごめんなさい、住友三井系ですね、日本総合研究所。何点中何点っていうのと、あとの2社の点数だけをちょっとまず教えていただけますか。逆に足りなかった部分があるならですね、どの辺が足りなかった部分かっていうところも、ちょっと教えてください。

○佐賀駅周辺整備構想推進室参事兼推進係長

500点満点中ということになります。株式会社日本総研につきましては、360点の得点でございました。他の2社でございますけれども、295点、271点というふうになっております。足らなかった分……

○山下伸二委員長

ほかの2社で、特にこういったところがやっぱり低かったっていうところがあれば、何か答弁いただきたいということだったんですけども。

○佐賀駅周辺整備構想推進室参事兼推進係長

この2社で見比べると、295点、271点ということで、拮抗しておりました。ただですね、さっきの質問で申し上げましたとおり、どうしても、全項目において日本総研のほうはずっと点数の上乗せがちょっとずつあったということでこの開きになっておまして、どこどこが特にだめだったというところまではなかなかございません。

○白倉委員

そうしましたら、これの審査に当たられたメンバーですね。どういう構成で審査に当たられたかっていうことと、これ非常にもう市民も注目するところの大事な事業を、いわゆる委託するわけですから、日本総合研究所に。その部分に当たる360点ですね、500点満点中。それは、項目と点数っていう資料は出せますか。ほかの2社はもちろん結構ですけども、その辺を示していただきたいと、資料請求したいと思いますが。

○山下伸二委員長

資料請求の要望ですけども、出せますか。

○佐賀駅周辺整備構想推進室参事兼推進係長

資料は改めて準備させていただきたいと思います。

○山下伸二委員長

以前ですね、この案件じゃないんですが、プロポーザルの結果を出してほしいと言ったときに、取れなかったところは出さないという話だったんですけども、そのあとですね、社名を伏せて、AとかBとかにしてその点数を出していただいたことはあるんですよ。だから、日本総合研究所はもちろん名前を出して、項目ごとの点数を出していただきたいんですけども、残る2社も、可能であれば、名前を伏せて結構ですので、それぞれの項目ごとの点数を出していただきたいんですが、そういった資料提出は可能ですか。

○佐賀駅周辺整備構想推進室参事兼推進係長

準備させていただきたいと思います。

○山下伸二委員長

これは委員の皆さんに、後から棚入れ、メール、Side Booksのほうに、今日の追加資料として入れておくということよろしいでしょうか。

(「はい、ぜひ」と呼ぶ者あり)

じゃあ資料が出てきましたら、皆さんのほうに配付させていただきます。

ほかにございませんか。

○永渕副委員長

委託業者になりました日本総合研究所なんですけれども、ホームページ等で検索しますと、佐賀とかにもよくお越しになっている藻谷浩介さんの名前などが出てくるわけなんですけど、先日も佐賀県とのまちづくり研修会にお越しになったりした経緯もあります。何かアドバイスを受けて、そういうことを考えたりするのか教えてください。

○池田佐賀駅周辺整備構想推進室副室長

今のところ藻谷浩介さんから直接アドバイスを受けるとかっていうことを考えているわけではありませんが、必要であればコンタクトをとることはできるかというふうに思います。

○山下伸二委員長

何か、こうね、タイミング的にあったので、何かあるのかなっていうふうに思ったりもしますよね、それはね。

○池田副室長

そういう意図は全くございません。

○山下伸二委員長

失礼しました。

この件について何かほかに皆さんからございませんか。よろしいですか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

それでは、3番目、市道三溝線の整備について、皆様からの御質疑をお受けいたします。

○平原委員

3番だけじゃなくて、3番、4番ちょっと関係しているんですけども、まず佐賀駅の北

口のこういうイメージ図、つくっていただいています、障がい者の方々の専用の駐車場と
いうのが幾つ、何台確保されているのか。

それと市道三溝線について、今から整備されていきますが、障がい者の方々への配慮をし
た取組といますかね、そういう特徴的なものがあれば、お知らせをお願いしたいと思いま
す。

○山下伸二委員長

すみません、平原委員。

佐賀駅前広場の障がい者用駐車場については、ちょっと整理上、あとの4番のところであ
ただいて、市道三溝線の整備について、障がい者の方への特筆する配慮等があれば御答弁を
お願いしたいと思うんですけども。

○江口道路整備課長

三溝線の整備につきましては、点字ブロックはもちろんつけるようにしております。それ
と、歩道を歩きやすくなるように、透水性の舗装、水が浸透するような舗装で、水がたまら
ないような整備をしていきたいとは考えております。

○山下伸二委員長

点字と塗装ですね。市道のほうもちょっと後で整理するので、市道の分だけ。

○重田委員

確認ですけど、三溝線に行くところ、駅のすぐ北のほうはスクランブル交差点になるん
ですね。どうなんですか。

○池田佐賀駅周辺整備構想推進室副室長

はい、スクランブル交差点になります。

○重田委員

そしたら、それからあと1本、北に行ってですよ、ホテルの横は普通ですよ。そうした
ら、左折レーンはどれぐらいの長さを造るんですか。

(発言する者あり)

左折レーン。

○山下伸二委員長

左折、直進レーンはそのままでしょ。

(「はい」と呼ぶ者あり)

左折、直進レーンはそのまま直線で、右のほうに右折レーンが入る。

○重田委員

今日も朝来ていたんですけど、商業生が通る7時から8時ぐらい、左折の車はほとんど
通れないんですよ。で、そのままやったら直進まで通れなくなってですね、ほとんどもう
そこは通らないように——何か、左折レーンを造ってやらないと、もう直進まで行けないと
いうことが起きるんじゃないんですか。

○池田佐賀駅周辺整備構想推進室副室長

北側のアパホテルの交差点のことを言われているわけですかね。

○山下伸二委員長

既に、道路の配備については、社会実験を踏まえて、右折レーンだけをつくると、1車線にしてという説明を受けているんですけども、今の質問は、左折レーンを造る必要はないのかという、左折専用レーンです。

○姉川建設部副部長兼都市政策課長

アパホテルのですね、特に北から左折する、北から来て左折する方向だと思います。商業生がいっぱい通っているという中で、あそこで左折する車も多いわけですけど、現在のところ、左折と直進とですね、レーンで一緒のところであるような形で今計画しております。左折する何台かはですね、少し横断歩道等を引きますので、そこで何台かはかわせるような形にはなると思うんですけど、通常の道路の交差点で、今のところいく予定にしております。

○重田委員

実際ですよ、私も、その時間結構通るんですけど、今も右折の車が交差点に止まって、左折は商業生が歩いていて、両方とも動かないんですよ。なので、多分時間によりけりだと思うんですけど、商業生が朝来るときは、左折レーンを、例えば10メートルか20メートルは造って、そこに入れてしまわないと、直線がもう動かないようになってしまうんですよ。

○池田佐賀駅周辺整備構想推進室副室長

私もあそこはよく使っているのですが、私の感覚ですが、現状も直進と左折か、直進と右折っていうその2車線しかありませんので、今回車線をつぶすということが、右折レーンは確保しますので、車線をつぶすということが、今回商業生——商業生がっていうのはあれなんですけど、自転車専用道路を通られることが原因で、そこに渋滞が発生するという事ではないと思うんです。現状と変わらないというような話になるのかなというふうに思いますが、考えられるのは、信号のときにはですね、歩行者用信号がとまると自転車とか何とかっていうのは、多分、余り行かなくなるっていうふうに思いますが、佐賀商業の学校の先生方とも御相談しながらですね、そういった事態を少しでも防ぐような相談というのはしていきたいというふうに思っていますが、現状、今2車線があって、右折をする車がとまっています。で、右側の車線は右折用でもうほとんど占有されていますので、左側の直進、左折が1車線で生きているというのが現状、私がしょっちゅう使っている状況から言うと、現状そういう状況にあるので、それが右側の中央ライン寄りのセンターラインよりの車線が右折専用になるところが違うところかなというふうに思いますが、現状はあまり変わらないと思いますので、運用を上手にしていって、左折の、自動車と交錯しないように、そういうことは相談をしていきたいというふうに思っています。

○重田委員

多分、池田さん、それは間違いじゃないですか。今は基本的に右折の車もあるんですけど、

直進が主なんです。今度は右折専用レーンをつくるんですよね。右折じゃない車は、1車線で行かなくちゃいけないし、そこに左折の車が1台か2台か止まったら、もう進まないですよね。なので、その辺、基本的に右折専用レーンを使って追い越したら、それは道路交通法違反ですよね。

○姉川建設部副部長兼都市政策課長

今回の分については、社会実験等をして、そこまで渋滞がなかったっていうことで、結論、こういうふうな道路の形でいいだろうということで決定しております。

もう1つですね、商業生につきまして、自転車で通われている学生も結構いると思うんですけど、その分については、基本的に、駅から商業高校に行くときには左車線を通る必要が出てまいりますので、そこで、自転車と歩行者が分断していくというような形の中で、左折自体がスムーズにいくようにということで思っています。

で、実際、社会実験でもそういった車線を減らして、実際社会実験をやっておりますので、そういった顕著にそこが渋滞したというような結果は出ておりませんので、そういったものに基づいて、今回道路計画をさせていただいたところでございます。

○重田委員

そしたら、もうこれ以上言いませんけど、何回か見てください。時間、7時から8時の間。会社員さんたちもその時間が1番通るので、その辺も何回か見ていただいてですよ、やっぱり問題があるなっていうなら、ちょっと検討してください。以上です。

○山下伸二委員長

ちなみにですね、高校生の利用について、もちろん社会実験を行っていただいたんですけども、三溝線を活かしたまちづくり検討会は4回開かれていますよね。そういった中で、そのような地元の方とか、高校の方も参加されていますけども、そういった声とかはなかったのかどうかっていうのは、それを確認させてもらっていいですか。

○池田佐賀駅周辺整備構想推進室副室長

三溝線を活かしたまちづくり検討会の中で左折レーンを作らないといけないという御意見は、もちろんございませんでした。高校生の利用に関して、先ほど、建設部のほうから言いましたように、左側通行をしていただかないといけない、今度、自転車専用レーンを使ったら、自転車は左側を通過していただかないといけないということが今回からきちっと言われることになるんですけども、そのときに、ちゃんと守ってくれないと困るよねみたいな感じの御意見っていうのがございましたが、検討会の中に商業高校の教頭先生に入っていますので、マナーを守るように私どもとしても指導していきますというような御発言もいただいておりますので、そこら辺については、商業高校と私たちも一緒になって、マナーを守っていただいて、その混雑緩和には寄与していくようにはしていきたいというふうに思っております。

○山下伸二委員長

分かりました。

○御厨委員

そもそも、今回自歩道ではなくて、自転車専用レーンということは、自転車は、信号は車と同じ信号を見て、止まったり進んだりするんですか。

○姉川建設部副部長兼都市政策課長

自転車は基本的に車両という取扱いになりますので、そういったことになります。

○御厨委員

そういうことであれば、信号が青の間はずっと自転車も通れるということになります。今、お答えいただきましたように、商業生が道路の西側を通過して通学すると思えば、重田委員が言われた南に下っている車の、今度右折が曲がれなくなるという懸念がございますが、そのあたりは考えていますでしょうか。

○姉川建設部副部長兼都市政策課長

右折の量は、そこまでは多くないというようなことで考えております。ただ、右折車がどうしても行けなかったら、信号等で右折表示をつけるのかっていう議論はやっぱりしないといけないのかなということがございます。

○御厨委員

そのあたり、本当、さっき言われたように、そのあとの追跡調査じゃないですが、しっかり見ていただいて、私も1個離れた東神野の交差点に毎朝おりますけど、やっぱり右折する車が、最後もう曲がれなくて、信号無視で行ったりとかを多々見かけますので、最後、右に曲がる矢印だけでも出すとか、そういうのをちょっとよくよく検討されてください。よろしくをお願いします。

○山下伸二委員長

よろしいですか。

○富永委員

1つだけ確認ですけれども、電線の地中化なんですけど、アパホテルの北側も地中化されるというふうにおっしゃいましたけども、これの終点は三溝線の終点までということでしょうか。

○江口道路整備課長

はい、そのとおりです。

○白倉委員

三溝線自体が歩きたくなる仕掛けをこれからいろいろと考えていかれると思うので、ベンチとかですね、そういうのも含めて検討委員会のほうでまた市と協議されると思うんですが、基本的なところで、先ほど障がい者の方たちの対応っていうのが出ましたけれども、トイレなんかはどういうふうに考えていらっしゃるでしょうか。というのが、例えば、みんなのトイレみたいなね、車いすでも入るようなトイレが、ぜひ沿道に必要なだと思っておりますけれども

も、そういうふうなことも勘案されて整備されていかれるんですか。

○池田佐賀駅周辺整備構想推進室副室長

1点、1番この三溝線の狙っているところは、アリーナ周辺でございますので、アリーナ周辺まで1.4キロぐらいあります。歩いて20分ぐらいはかかりますので、この途中に休むところ、休憩するところとトイレはどうしても必要だなというふうには私たちも認識しておりますし、それから地元からの御要望もあっておりますので、それはそういった方向で検討しているところです。

○白倉委員

それは、今のところは1か所ですか。というのが、ここ自体が、アリーナに行く方の、目的地に運ぶだけの道路ではないという考えも恐らくあると思うんですね。ふだん、市民が使えるような、憩えるような、そこのところを有効にしていこうっていう、ある意味まちづくりの意味も私はちょっと含まれているかなと思うんですけども、そういう休憩とかトイレは、1.4キロメートルの間に、今のところ1か所しか考えられていないんですか。私は最低2か所いるなと思ってはいるんですが。

○池田佐賀駅周辺整備構想推進室副室長

最低1か所は考えたいというふうには考えております。

○山下伸二委員長

考え方は示されているんですけども、まだ具体的な案については出てないんですよね。だから、多分もうそれ以上、今、答えは出ないだろうなと思うんですけども。

○白倉委員

それで、今のところ、もちろん最低1か所。それはぜひ、恐らく必要な部分だろうなと思うんですけども、2か所必要ではないかという意見が出たっていうことも踏まえてですね、今後ちょっと検討をぜひお願いしたいと思います。

○山下伸二委員長

よろしいですか、要望ですので。

ほかにございませんか。

○中村委員

三溝線でちょっと確認といいますか、植栽の部分で、現状のままなのか、植え直しっていうか、本数とか、変わったことはないんですか。

○山下伸二委員長

どちらが答えますか。

○佐賀駅周辺整備構想推進室事業係長

現状は、西側は当然、歩道幅員が変わらないので、既存の木、今生えている木でいく予定です。

ただ、地元の方から、ちょっと木が密すぎるっていう、生え過ぎているっていう話もあり

ますんで、樹形の悪いものとか、そういうものは途中間引くことは検討しています。東側につきましても、アパホテルまでは電線地中化のほうが終わっていますので、今の木を、樹形の悪いものは間引いたりするかもわかりませんが、今の木をそのまま活用する予定です。で、アパホテルから北の東側が今回電線地中化をすることになります。こちらにつきましても、西側にケヤキが植わっているんですね。東西が違う木っていうのは、ちょっと景観上余りよくないんじゃないかということで、今のところは、ケヤキをそのまま植えることを念頭に考えております。ここは、検討会でもいろいろ意見がありましたので、決定事項ではありませんけれども、東西の樹種が一緒であったほうがいいのかということ、事務局としてはケヤキを本線に検討しております。

○山下伸二委員長

よろしいですか。いいですね。

○重田委員

あと1点。三溝線、アリーナでいろんなイベントをしたとき、大体どれぐらい歩く予定なんですか。

○山下伸二委員長

人数ですか、どれぐらいというのは。

(「はい」と呼ぶ者あり)

アリーナ利用者の何%ぐらいが歩いて利用するだろうかっていう想定をたてられていますかっていう質問だと思うんですけども。

○池田佐賀駅周辺整備構想推進室副室長

県のほうと、そういう人数とか、アリーナ周辺にアリーナ利用者全員分の駐車場を確保できるわけではないということも前提に置いた上で、人の動線っていうんですか、そういう検討を始めたところですので、まだ移動の、歩く方がどれぐらいの数がいてというような細かい話し合いの場にはまだなっていないのが現状です。

○重田委員

やっぱりこういう道、さっきの話も含めて、イベント時は人が結構歩いてくると。その時間はもう曲がれないよっていう感じとか出て来るんじゃないかなと思うんですよ。県としては、なるだけ歩いて行ってくれというお願いですね。例えばコンサートをやったっていったら、多分その1時間ぐらい前から、1時間くらいはずっと人が歩いたらそういう部分が想定されますので、それも踏まえてやっぱり検討してください。後から、あなたたち分かっていたでしょう、こうなるって分かっていたでしょうと言われないように、やっぱり検討してもらいたいと思います。

○山下伸二委員長

何かコメントありますか。大事な指摘だと思いますよ。

本来どれぐらいの人が歩くかっていうことが想定されていないと、信号の設置について

も、なかなか具体的にこうですよってというのは、なかなか言えないですよ。今、県と市とでそういった検討を始めたということですので、そういった想定についても、やっぱり委員会等に、話し合いの結果は報告していただきたいと思います。

○池田佐賀駅周辺整備構想推進室副室長

今いただいた御意見については、話し合いの場にも持っていきたいというふうには考えております。

○山下伸二委員長

先ほど副室長からあったように、右折専用信号をつけるかどうかとか、そういったものも、恐らくその歩行者の数によって、社会実験で分からなかったことが出てくるわけですよ。そういったことがあると思いますので、ぜひそういったものは報告していただきたいと思います。

○福井委員

私もこの間、先進地のマツダスタジアムの視察をした中でその辺の話もちょっとあったんだけど、やっぱり要するに、ウォークブルの分は使いましょうというような、その1つの指摘というか、あるいはそういうナビゲートする政策っていうのがやっぱりあるので、そういう点では、何人通るかじゃなくて、メインはそこで通ってもらうというような、そういう施策の打ち方というのが必要だと思うんですよ。そういうふうなことをやっぱりやって、せっかく造る道なんだから、そういう施策に持っていくべきだろうと思います、流れを見てじゃなくて。そういう方向はぜひ考えていただきたいと思います。その辺、いかがでしょうか。歩かせるということ。

○池田佐賀駅周辺整備構想推進室副室長

基本的には、とにかく皆さんに歩いていただいて、ゆっくり歩いていただいて、楽しんでいただいて、それをメインに持っていく道だというふうに考えておりますので、先ほどからいろいろ御意見をいただいておりますが、車等を使われる方にとって支障が出るような道になってはいけないっていうふうに思っていますので、そこら辺、両立は非常に難しいかと思いますが、バランスのとれた施策、道の対応にしていきたいというふうに思っています。

○嘉村委員

ウォークブルの話が出ていましたんで、今、国の指定っていうのは、あそこは受けるんですか、受けているんですかね。今歩かせるっていう話が出て、やはり、いろんな仕掛けをして、あそこにいろんな楽しめるような場所として、政策的に誘導しないといけないわけね。そういう点からすると、国のウォークブルシティの支援策、これはもう財政的な支援というものもあるでしょう。どういうのがあるのか。だから、あの辺にやっぱり店舗とか、今ちょっと何ですかね、歩道も広くするから、オープンカフェみたいなのも出店できれば、楽しくなりますよね。そういうとき、やる場合に、今、店舗としてこういうのがあるけど、1階は改装したりとかという時の、そういう支援策というのは、国はありますか。また、佐賀市とし

てはどう考えているのか。

○佐賀駅周辺整備構想推進室参事兼推進係長

財政的な支援としまして、この佐賀駅周辺の整備事業というのは、都市再生整備事業ということで、対象事業費の4割の補助を受けるということで始めておりました。しかし、ウォーカーブル推進都市、国が政策として打ち上げてきたところから、10%のかさ上げを補助しまして、50%の補助ということになっております。財源的な支援としてはそういうことですが、そのほかちょっと補足的に申し上げますと、税制なんか少し改正を検討されておまして、道路沿いに民地がありまして、その民地を通行人とかが使えるような、公有地的な扱いをする場合には、固定資産税を減免するとか、そういう制度を導入されております。

○嘉村委員

ともかく楽しく歩けるような、このまちづくり、通りとしてね、やっぱ行政の誘導策、これはやっぱり、しっかり考えてやっていただきたいなということを要望しておきます。

○山下伸二委員長

要望でよろしいですね。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○平原委員

その他の関連事項で質問しようかなと思ったんですけども、今、嘉村委員のほうから、国の政策とか、そういった話が出ましたので。

我々、先日、広島市と姫路市のほうに視察に行っていました。とりわけ姫路市のほうには、駅から姫路城まで、全く同様の1.4キロメートル、駅から降りて姫路城が見えるので、歩く方が多いというようなことでした。で、どれだけですかって聞いたら、それはちょっと、まだわからないということですけど、我々が視察したときに感心したのが、人が乗って、もう自動で駅からお城まで行くんですね。ラクロという1人乗りのね、あれですけど、それを今、姫路市のほうでは実証実験されていて、この実験の後、よかったら、3台ほど市のほうに入れて運行すると。で、高齢者の方々なのかな、障がい者の方もですけど、そういったことを考えて、今実際、試験をされているわけですね。市としては、そういう視点も必要じゃないかなというふうに思います。

で、今そういった取組の段階ではないと思いますけれども、研究されて、そういったことがトライできれば、していただきたいなというふうに思います。

○池田佐賀駅周辺整備構想推進室副室長

大変興味を持っておりますので、話題としては取り上げていきたいというふうに思っています。

○山下伸二委員長

ちょうど視察に行ったときに社会実験中で、実際乗られて、ずっと歩道のところをですね、AIなので、人とかを察知してよけるんですね。信号はもちろん、そのAIで信号を見て止

まるっていうのがあって、非常にこう、興味深くあったので、ぜひ、御提案がありましたんで、研究していただきたいというふうに思います。

ほかにございませんか。

○永渕副委員長

視察のお話が何回か今出ていますので、ちょっと確認をしたかったんですけども、先ほど言ったように、駅から、姫路城をみんなで見たときに、目的が目の前にあると非常に歩きやすいついていう印象を受けました。そういうところで、例えば、高さ、高いものを建てる上で、ルールというか、このメートルまでしか高さは建てられませんとかそういうのがあったりするの。別にこの縦に伸びる部分に関しては、何かこう、造ってもいいものか、素朴な疑問なんですけど教えていただければと思います。

○姉川建設部副部長兼都市政策課長

ちょっと調べてみないとわからないと思うんですけど、基本的に建物については、やっぱり建ぺい率と容積率がありますので、用途に応じて、建てる高さっていうのも決まっていますし、制限があるところもあるんですけど、ここについては商業地域になっていますので、ある程度の建物は建てられるということになります。ただ、建物以外のものについては、規制があるのは航空法であったりとか、そういったものが考えられますけど、ここは航空法にはかかっていないと思いますので、構造上どこまで建てられるのかっていうのは、ちょっと調べてみないとわからないんですが、そういった規制があるのかっていうのは、ちょっと、今まであんまり経験したことがないもんで、建物はですね、いつも許可を出しますので、そういったところしかちょっと。後でちょっと調べさせていただいて、どういったものをちょっと想定されている……

○永渕副委員長

本当に素朴な疑問だったんですけど、要は、縦に高いものがあるってそれが非常に目印になっているということがあれば、目印に向かっていけばアリーナに着くのだから、そういうことになるのかなと思って。それは、実は姫路城が目の前に、高いところに見えたときに、あそこを目指すんだと思うだけで、歩く気力が湧くっていうのと、もう1つは、実は、先日文教福祉委員会で宮崎市のほうに視察に行ったときに、あちらの駅前に科学センターみたいなところがあって、そちらにロケットが、オブジェとして展示されておりました。そしたら、そのロケットをやっぱり目指して歩いていくイメージが、そのとき見たときにできたものですから、高いものっていうのは、人間っていうのはすごくそういうふうに思うもんなんだなと思ったもんだから、ちょっと素朴にそういうのって、高いものっていうのは建てられるのかなと思った次第です。

○山下伸二委員長

そしたらちょっと調べてみるということですので、副委員長、先ほどの件については次回の委員会のときでいいですか。

では次回委員会までに確認をお願いいたします。

それでは、大分時間も過ぎましたのでごめんなさい、佐賀駅前広場の整備のほうに移りたいと思いますけども、まず平原委員のほうからありました、駐車場、障がい者用駐車場の整備等について、まずお願いします。

○池田佐賀駅周辺整備構想推進室副室長

駐車場の中に、障がい者の方専用の駐車場っていうのは、北口で1カ所設けています。それを1カ所、1台分ですね。駐車場自体がそんなに大きな駐車場ではございませんので、その中に1台、障がい者の方専用の駐車場というか、設けております。

それから、降りるところも、障がい者の方向への降りる場所っていうのを造っております。

○平原委員

1台って言われて、私ちょっとびっくりしたんですけど。これはあれですかね、例えばその、1台確保しとって、恐らく他の駐車場は、健常者が多いと思うんですけど、そこに、もう、満車状態のときに、障がい者用の1台もとまっていると、後から来られた方がとめられないというような現象が起きるんじゃないかなあというふうに思うんですけどね。そういった点については、あと1台ぐらいはやっぱり増やすということは考えられないんですかね。

○佐賀駅周辺整備構想推進室事業係長

今のところの計画で、北口で全駐車枠10台中1台が身障者対応ですね。それと先ほど、言いましたように、駅にべた付けするところで、ここは乗降場になります。それを1台、あとはこれから南口を整備していくんですけども、そこでも駐車場を1台、乗降場1台考えています。

で、駐車場は基本、駅に来られる方は乗降される方をちょっとメインに考えて、駅の駐車場に関しましては、お迎えっていうか駅に来られる方を待つ方を対象にした駐車場と考えていまして、現有の広場の面積でちょっと、一般車との兼ね合いから、南北1台ずつということで今、計画しております。

○山下伸二委員長

今年2月の第2回の委員会のときに、北口と南口の平面図を出していただいているんですけど、そこに1台ずつありますよね。こういう形で整備をするという、決まりということですね、すみません。もしiPadを見れる人がいらっしゃったら、第2回委員会の資料の、佐賀駅周辺整備事業についての、1の1のところですね。1の1、表示をしたところの、北口のほうに、タクシープールがあって、その上のほうに、一般用の駐車場があって、1番西側のほうに、これ多分ゼブラゾーンがあるんで、ここが専用駐車場、障がい者の方の駐車場だと思いますが、こういう整備の考え方ということですかね。

○佐賀駅周辺整備構想推進室事業係長

そういうことになります。

配慮としましては、駐車場の中で1番駅舎に近い側、動線的に、駅舎に1番近い側に身障者の駐車場を配置しております。

乗降場につきましても、一般車は駅舎から離れたところに乗降場を設けておりますけども、身障者については1番駅舎に近いところに乗降場を設けさせていただいております。

○山下伸二委員長

よろしいですか。

これ、何かこういう整備をするときに、全体の台数が何台だったら何台以上、例えばパーキングパーミットとか障がい者専用だとか、そういったくりみみたいなものはあるんですか、ないんですか。

○佐賀駅周辺整備構想推進室事業係長

県のバリアフリー条例にそういう決まりがあって、一応それに基づいて計画しているところですよ。

あと、補足ですけど、先ほど言われたように、こういう身障者のところには、基本健常者はとめられないということで理解をしております。

○山下伸二委員長

とめちゃだめでしょうね。

○平原委員

今我々は、佐賀駅から市道三溝線を通してアリーナのほうに向かうっていう視点で議論をしているので、障がい者の駐車場1台ということで、スペースがないという説明なんですけど、やっぱり駅北口であつたって、南口であつても、障がい者の方々は、やっぱり電車を使ってよそに行くよ。そのための駐車場として、南口、北口の駐車場を使われるだろうなというふうに思います。

そういった中で、我々も、以前障がい者の団体の方々と意見交換をやったんですけどね。北口とおっしゃったですかね、もう全て障がい者の方々の駐車場にしてほしいとかっていう、ちょっとそういう意見も出たことがあるんですよ。この1台1台というのが、非常にそういうニーズに応えられるような台数があるのかなって、ちょっと今、疑問を持っていますけれども、ちょっと検討の余地はないですかね。1台1台だけじゃなくてですよ。

○佐賀駅周辺整備構想推進室事業係長

この駐車場の位置づけとしては、長時間駐車をちょっと想定しておりませんで、駅を使う方の送迎、短時間駐車を想定しております。現在の駅前広場もそうなんですけども、料的には現在20分無料なんですけど、それを超すとずっと青天井で料金はね上がって行って、数時間とめれば何千円っていうような形になるような駐車料金体系をとってしまっていて、ここに駐車して、電車に乗って行くっていう想定駐車場――駐車場があつたほうが非常にいいことは理解をしているんですけども、駅前広場の広さからして、そういった形の駐車場が十分とれないということで、ここは短時間駐車する方を対象とした駐車場として整理し

ていまして、その中で必要な身障者台数ということで、1台ずつということで計画しております。

○山下伸二委員長

いいですか。ほかにございませんか。

○中村委員

ちょっと関連といたしますか、ほかにですね、今、駐輪場—サイクルですね。これは、そのまま—関連で、駅の下の駐輪場、自転車ですね。

○池田佐賀駅周辺整備構想推進室副室長

駅に平行に並んでいる駐輪場ってということですか。

(発言する者あり)

駅の駐輪場につきましては、別途、今の駐輪の在り方でいいのかわかっていうこととか、今工事で北側の駐輪場、道路上の駐輪場って外したりなんかしているんですけども、そういったことを今後どうするのかとか、南側の商業施設ができた後の駐輪場をどうするかという、駐輪機能全体の見直しをかけているところですので、また別途それは御説明させていただければというふうに思います。

○中村委員

というのは、視察に行って、姫路のほうだったんですけど、地下に造ったりとか、ちょっと新たに使いやすくというか、歩道もやはりすきっとしてあっていうところもありますもんですから、佐賀市の場合、いろいろできる、できないはあると思うんですが、そういったことも含めて、ちょっと見方というか、在り方というか、そういうところも考えていただければと思います。

○山下伸二委員長

確認なんですけど、全体の駐輪場を含めて今検討しているということなんですけども、したら今、北口広場とか南口広場、そこのところに駐輪スペースだとか、駐輪エリアとか、そういったことを配置するっていうことも、今後の検討次第ではあり得るということですか。

○池田佐賀駅周辺整備構想推進室副室長

それは考えておりません。

○山下伸二委員長

考えていないですね。

○池田副室長

駅周辺で、どういう配置をするべきかということ、この機会に考えているところです。

○白倉委員

障がい者用の駐車場ですね、今、南口に1台分、北口に1台分という。その在り方というか、長時間とめる意味合いのものではないって、今までのとおりですね、その意味合

いからは分かるんですが、ちなみに、今後整理した後、その無料時間は今まで20分ですよ。で、こっこの暫定駐車場は30分ですよ。駅のほうはどうなる予定なんですか。

○佐賀駅周辺整備構想推進室事業係長

今後、あそこはJR九州との協定広場でありまして、市とJR九州とで管理をしております。で、料金とかにつきましては、今までどおりとするのか、整備にあわせて幾らかちょっと変えるのかは、今後のJR九州との協議になるかと思えますけど、駐車場の位置づけというのは変わらないので、今から大きく変更することはないと考えております。

○白倉委員

そうしましたら、駅利用者、障がい者の車いすの方なんかでも、駅利用者が1番近い駐車場っていうのが、今のところ暫定駐車場。あそこは、ちなみに、障がい者用駐車スペースが幾つかとってありますが、幾つ分とってありますか。

○佐賀駅周辺整備構想推進室参事兼推進係長

5台設けております。

○山下伸二委員長

それも、県の条例に基づく台数ということですね、5台という考え方は。そこは整合性がないとだめですよ。

○佐賀駅周辺整備構想推進室参事兼推進係長

一応、駐車場の運営を開始した後に、旧西友の駐輪場跡のところも舗装して増やしたりしておりますので、ちょっと数の関係というのは確認をさせていただいてもよろしいでしょうか。

○山下伸二委員長

確認してください。そこはね、整合性がないと、先ほど1台、1台しか整備しないと言ったことと整合性が取れないので、確認してください。

○白倉委員

そういうことの、台数整備の整合性の部分をちょっとお聞きしたかったのと、調べてみまわすってことなので。あその部分は、コムボックス利用者、買い物利用者なんかも当然とめる駐車場になりますので、今の、現状なんかをよく見ていただきながら、5台で足りているかどうか。あの広さからいったら、私はもっとあってもいいかなっていう気がするもんですから、その辺も含めて、ちょっといろいろとまた検討してみて、結果を出してください。

○山下伸二委員長

先ほど件について、確認していただいて、正副委員長のほうに連絡をいただけますか。場合によっては、それだけでもまた開かなければならないかもしれませんから。資料提供だけでいいのか、報告だけでいいのかですね。白倉委員、そこら辺については、正副委員長で報告を受けて、その結果を踏まえて、委員会としてどういうふうに取り扱うかは決定させてい

いただきますので、よろしくお願ひいたします。

よろしいですか。

もう1時間過ぎたんですけれども、切りがいいので最後にいいですか。ごめんなさい。なかなか休憩をとる時間がなかったもので、すみません。トイレに行かれる方は、適宜、お願ひいたします。

(「はい」と呼ぶ者あり)

駅前広場の件についてはほかに何かございませんか。よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

それでは、コムボックス来店者の動向について、御質疑をお受けいたしましたしたいと思います。よろしいですかね。これはこういった報告を受けましたということで。それでは、その他の関連……

(発言する者あり)

来店者の件ね。

(「その他」と呼ぶ者あり)

その他ですね。その他の件で、まず、県道佐賀停車場線の道路空間の検討について。

○宮崎委員

佐賀駅の南口のエントランスとして見て、南口のほうも空間の検討をするということですが、1つが、これ中央通り再生計画ときれいにつながっているわけで、その関連性をどういうふうに持たれるのかということと、前の総務委員会のと時から、特別委員会の前のときから私は言っていたんですが、ここの南口の場合だと、あまり通行車両はそんなに多くはないので、減車というのはわかるんですが、ウォークブルっていう考え方もあるんですけど、道路を狭めればまちづくりがうまくいくっていうふうな感じに、どうしても受けとめられるようなところがあって、そこら辺、例えば、大分とかですね、一遍、自動車道を削ろうとして、途中失敗して、今また元の幅に戻したりとかですよ。そういった事例もあるわけで、そこら辺はどういうふうに踏まえておられるかというのを、ちょっと再確認で、その2点をお聞かせください。

○池田佐賀駅周辺整備構想推進室副室長

減車——車線を減らす方向で考えていきたいというふうには考えておるんですが、それは、とにかく人を歩かせたいから減車するというだけではなくて、通行、本当に4車線が必要であるかどうかということもきちっと踏まえた上で検討したいというふうに思っていますので、以前にいただいた資料を見ると、通常の2車線道路よりもかなり交通量は少ないという確認はとれておりますので、多分、そういった方向で考えていくことになると思いますが、再度、きちっとした通行量の調査とかを踏まえて、本当にここに必要な車線数というのは検討したいというふうに思っております。

○山下伸二委員長

それともう1個、中央通り再生計画との関連について。

○池田佐賀駅周辺整備構想推進室副室長

中央大通り再生計画につきましては、経済部のほうでやっておりますので、それとはもう整合をきちっととっていきたいというふうに考えております。どこからやるかっていう話があったんですけども、中央大通り再生計画は2か年の計画でやっていっているところがあるということで、私たちとしては、できる限り、国民スポーツ大会がある前にですね。ここの南のところまで、南口広場ができるのにあわせて、南の道路のほうも整備できないかなっていう気持ちを持ってしまして、県のほうにもそういった要望をしているところですので、なるだけ早く、この部分についてはもう駅の広場と、南広場と一体のものとして扱って、御議論をいただく場を設けて、ここまで駅のテリトリーとしてやっていきたいというふうに考えておりますので、もちろん、整合はとっていきたい、つないでいきたいというふうには考えております。

○宮崎委員

そしたら今、なるべく早く、国スポに間に合うようにということ、ここも2024年の整備が完了するまでというような形で今書いてあります。タイムスケジュール感的には、あと4年しかありませんが、4年なので出来上がるのはその前でしょうから、3年ちょっとでしょうけども、そういった感じで、ここもきれいに社会実験をするなり、歩道を広げるなり、車道を減らすなりという何らかの動きがあるというふうにもう認識をされていていいですか。

○池田佐賀駅周辺整備構想推進室副室長

事業主体が県でございますので、県のほうの、それからもちろん、国の補助金を受けて事業をされるということになりますので、確定的にこういうふうにやっていきますということは言いづらいところがあります。今、県のほうに打診をしているというか、有識者会議の場にも県のほうに入っていていただいて、皆さんの御意見も聞いていただいて、できる限り早く進むようにということをお願いしているところですので、方向性としては、そこに間に合うようにということを進めていきたいというふうに考えているところです。

○宮崎委員

ウォークブルのほうに、一応登録されているということで、南のほうもそうだったですかね。全体なんですよね。で、ここをそうやって、県のほうでここを補助されるとなったらウォークブルの、恐らく財政的な補助があるんだろうと思うんですが、これ多分中央大通りもずっと計画に入っていますけど、ぶつ切りじゃないけども、この時期でウォークブルやりました、この時期でウォークブルやりましたってところで、財政的なものは、その支援というのがあるのか、それとも一体としてやっぱりみなさないといけないのか、そこだけちょっとお示しいただければ。

○佐賀駅周辺整備構想推進室参事兼推進係長

先ほどちょっと御説明差し上げましたとおり、ウォークブル推進都市ということでの国

からの財源的な支援、これはございますけども、ベースになっております都市再生整備計画ってのがございます。それについては、佐賀駅周辺整備事業のエリアを対象に計画をつくってございまして、その上に、ウォークアブル推進の区域が乗ってきている形です。ですから、スタート地点での佐賀駅周辺整備の部分が対象となっておりますので、補助のかさ上げの部分につきましては、中央大通り、南のほうっていうのが対象には入っていないというのが現状でございます。

○富永委員

この県道、道路空間ということで、これから検討されて具体的な方向性も示されると思うんですけども、すいません、ちょっとですね、先日、このコムボックスの南側の店舗に入るオーナーさんとお話をしていたときに、あそこの街路樹の、イチョウの街路樹があるじゃないですか。これ県道なので直接的には県に言わなきゃいけないのかもしれませんが、今回、イチョウの銀杏のにおいがすごく臭いんだというふうな苦情を受けました。で、それがその方が、本人が何か思われているんじゃないかと、実際佐賀駅に降り立って、行かれる県外の方からそういう声をよく寄せられるんだということでしたので、これからそういうのも協議されていく中で、考慮をしていただけたらなという要望でお願いします。

○池田佐賀駅周辺整備構想推進室副室長

県と協議する中で、そういった御意見をいただいているということは伝えたいというふうに思います。

○山下伸二委員長

植栽についてはどうするか非常に大事な問題だと思いますので、駅から南側をきれいに見通せるかどうかですね、大事だと思いますので要望としてお願いします。

ほかにございませんか。

そうしましたら、障がい者団体からの要望については、前回質問が出た件について報告をいただきましたので、その点について何かございませんか。よろしいですかね。

それでは全体として、皆さんから何か質問があれば。

○白倉委員

全体通してということで、ちょっと5番のコムボックスのところとちょっと関連してくるんですが、先ほど報告、説明いただいたAコープの来店者の動向だけが、いろんなグラフ化されているんですが、私たちは、あのビルが成功してもらわないと困るわけですけども、2階にもテナント既に入っていますよね。それで、Aコープに買い物に行ったときに意識して2階に上がって買い物するようにしているんですが、2階の来店者の動向っていうのは何かお聞きになってますか。もうこれは、佐賀市が補助している部分でも何でもないのでAコープは年間400万でしたかね、いろいろしてはいますが、2階はもう、民間とテナント、民間投資のあれなので、ただ、ビルの成功っていうことを考えたときに何かこう、情報とか入っている部分があれば、行政でできることがあるかも含めてお願いします。

○佐賀駅周辺整備構想推進室推進係長

2階に特化した形の情報というのがちょっと今のところはお聞きできておりません。それが現状でございますが、この円グラフで資料の中に示しているもの、これはAコープの来店者に特化したものではなく、1階の共用通路部分に机を置いて、コムボックスそのものに来られたお客さんのアンケートという形でやっております。その分がちょっと、上のほうの表になりますと、Aコープの来店者、具体的に言うとレジ通過者の数をJAグループにお聞きしたもので、下のほうは、コムボックス1階の共用通路のところに机を置いて、建物に来たお客様に対するアンケートという形になっております。

○山下伸二委員長

2階の店舗がどういう状況かっていうのをある程度佐賀市としても把握しとかなないと、撤退したりだとか、また空き店舗が出たりとかして、このコムボックス自体がうまくいかなくなるんじゃないかという懸念はないんですかということだと思っておりますよ。だからそういったことに対して、佐賀市として何か、把握をされているんでしょうかっていうことだったと思いますけども。

○池田佐賀駅周辺整備構想推進室副室長

2階のテナントについて、経営の状況とかなんとかについて、私どもとして今のところ確認しておりませんでしたので、今後大和ロイヤルと話をする中で、そういったお話も伺っていきたいというふうに思います。

また、報告できることがあれば、こちらで報告したいというふうに思います。

○山下伸二委員長

可能な限り情報収集していただいて、また委員会で報告をいただきたいというふうに思います。

○福井委員

可能な限りじゃなくてね、本当、それはやる以上はしっかりと情報を——大和ロイヤルを通じてになるかもしれんけど、やっておかないと、今のままだとAコープオンリーですよ。こういうふうなことになってきたときに、建てた意味合いがなくなるということを、佐賀市としてはしっかりと考えとってほしいと。もちろん、民間のことだからと言われるかもしれんけど、駅前の対応ということになったら、その辺の認識と、それから対応は、ぜひ今まで以上に関心を高めて情報を集めていただきたいと思います。

○山下伸二委員長

よろしいですか。民間のことなんでというふうに割り切らずに、佐賀駅周辺の全体のことというふうに認識していただきたいという御意見としますので、ぜひそこら辺を踏まえて、情報収集をお願いしたいというふうに思います。

○白倉委員

そういうことでよろしくお願ひしたいのと、今ちょっと説明改めて受けて、この5番の部

分の、上のグリーンの枠に入っているのは、これはAコープの来店者、というかレジとか含めて買い物客と考えていいわけですね、一応ね。下の、グラフは入り口のところでということなので、特にAコープ利用者でもない、例えば、あそこをよく通路として通る人も、こちらのほうに、ほかの、何ていうかな、物産展とかいろいろありますから、そういう方すべて含めた通行者的な部分ですか。そのカウントのところは。

○佐賀駅周辺整備構想推進室推進係長

はい、今白倉委員がおっしゃるように、通行されただけの方も含まれる可能性はございます。傾向としては、Aコープに来られる方が1番割合として高いんじゃないかというふうに思いますが、基本的にはそういう形でコムボックス、建物の中に入ってこられた方が対象ということをお願いいたします。

○山下伸二委員長

共有通路におられた方に、7日間で1,336人に協力をお願いしたら答えてくれて、その中の割合を示していますということですね。

○永渕副委員長

2点、まず1つは聞きそびれて申しわけありません。4番の佐賀駅前広場の(2)の第1回駅前広場整備等活用検討会議での話なんですけど、水景施設で前回少しだけ議論させていただいて、こちらからの意見というのは、そちらでお伝えくださいねということをした経緯もございます。それをお伝えしていただいたのかということと、その後、どんな議論がされたのかをお聞きしたいです。

もう1点は、いろいろと勉強していく中で、こういうデータがあったらと思った部分があって、それは、このJR佐賀駅の乗降客数が1日当たり約1万2,000人ということですけども、これを、佐賀市として属性別——いわゆる通勤・通学、来訪、観光とかに分けて、そういうデータというのを佐賀市は現在お持ちなのか、この2点をちょっと教えてください。

○佐賀駅周辺整備調査特別委員会事業係長

水景施設の件でお答えします。特別委員会のほうで、まちなかに以前高額の費用を投じて建てたけども、故障で動かないものがたくさんあるということで、中途半端なものならないほうがいいんじゃないかという御意見等もいただきました。で、前回の検討会の中では、この駅前広場、広さも限られていますんで、有識者会議のほうに、事務局としては大規模な、高額なものは設置しないという方向性は伝えております。ただ、その中で、委員の皆さんから、水が全くないっていうのはやはり寂しいよねっていうことを言われましたので、小規模でも、たらたらと何か子どもが手で押して水が流れるような、そういった施設については、今後ちょっと他都市の事例を見ながら検討していきたいということで、前回の会議では終わっています。

○池田佐賀駅周辺整備構想推進室副室長

J R利用者のことですが、まず、J Rの乗降客数はですね。乗降客というと合計2万5,000人になります。乗客数で1万二千数百人ということで、大体1日2万5,000人の乗降客、利用者があるってことを言われています。で、あそこの駅の一部が、年間1,200万人ぐらい使われているっていう言い方を私たちはしているんですけども、それは、バスセンターの利用者、もちろんダブルの方もいらっしゃいますが、あと通行者も含めてのことなんですけど、これは通行者をカウントして取っているものなので、そこでアンケートを取ったりとかしたわけではないので、属性については把握しておりません。

○永渕副委員長

まず、属性を把握されていないということでしたけど、通行者から聞けば、先ほどこのアンケートですね、コムボックスもこのように取っていらっしゃるのを見た経緯からちょっと質問したんですけど、属性別を取ると傾向っていうのが見えるかなというところで、ぜひ検討していただきたいと思うのが1点と、いろいろ推計、皆さん、御意見が出ていましたけど、こちらのほうは、別にはっきりやめるとかやめないとか、そういうこととか余りこう圧力をつけていうか、つくってもらっては構わないというか、もう少し深く考えていこうという姿勢を示したつもりなので、やはり、他市の事例とかも含めて、こちらにも早く情報をまず、しっかり出していただきたいというのが要望です。

前半の質問に関してお答えを求めます。

○山下伸二委員長

乗降者の属性について調べる必要はないですかということなんですけど。

○池田佐賀駅周辺整備構想推進室副室長

そうですね、ちょっと考えてみます。以前属性っていうか、かなりつぶさに駅から降りてこられた方でバスに乗られる方がどれぐらいいらっしゃるかっていうのを調査したことがあるんですけど、その目的がですね、コンビニにバスセンターの中に入っただけです。以前はa m / p mだったんですけども、そこに入っただけのため、どうしてもやっぱりあそこの安全性を保つためにですね、トイレとか何とかを安全に使っていただくために、あそこに人が常時いて、明るい施設が必要だということで、コンビニを誘致したんですけど、そのときコンビニが、あんなところでもうかるはずがないからっていう感じでしたので、その理屈をひっくり返すために、私たちとしては利用者の方の属性とか何とかというのを調べたことはございました。

で、今度、あそこで利用される方の属性を調べているということであればですね、どういった目的のために、どういった形でとる必要があるかっていうのは、ちょっと検討してみないとわかりませんので、御意見をいただいたので、こちらのほうで一応考えてはみたいというふうに思っています。

それから、水の件なんですけど、水景については、やっぱり何か水はあった方がいいよねっていうような感じで、庁内で検討したときも、あそこにもともと水路があったわけではないの

で、水がある必然性はないので、何か楽しめるとか、暑い夏にちょっと涼めるというような感じの水という、水の何らかの仕掛けは必要だなということで、今、検討させていただいているところです。どこか他市の事例とか何とかも参考にしながら、この有識者会議のほうにそれを図っていきたいというふうに思っています。

○山下伸二委員長

属性の関係で、今直接目的がないんでしょうけども、旧西友駐車場、今から入っていくわけですね。そういったところで、もしかしたら必要性が出てくるかもしれない。どういうふうに日本総研が判断されるか分かりませんが、その辺も含めて検討していただくことですので、検討をお願いしたいというふうに思います。

○白倉委員

今の水の件に関しては、これからいろいろと有識者と検討していくっていうので、私たちもその議論の中にぜひ加えていただきたいっていうのがあるのとですね、というのが、先ほどね、なんかたらたらとか言われましたけど、どんなふうな感じをどうするのかね、まだ今のところちょっと見えてないので。

それとちょっとこれ質問なんですけど、佐賀らしい雰囲気を出すためにも、あそこは以前に北口に反射炉のモニュメントがありましたね、個人寄附だったんですかね。いや、ちょっとごめんなさい、あそこへ来た経緯が。それは、結局はどうなるんですか。

○池田佐賀駅周辺整備構想推進室副室長

反射炉の模型の話ですね。反射炉の模型につきましては、移設先を今ちょっと、検討しているところですので……

(「別のところ」と呼ぶ者あり)

別のところに、やっぱりあるのがふさわしい場所に移したいということで、今、一旦撤去していますので、どこに設置するかっていうのを今県も一緒になって検討させていただいているところです。

○白倉委員

分かりました。整備上、ちょっとあそこにあるのがね、あれだけでも、再設置はしないと。駅のところに場所を変えてでも再設置はしないという方向性になっているわけですね。そうしましたら、今後ですね、いろんな議論をしていかれる中で、やっぱり佐賀の玄関口っていうのは、やっぱり佐賀らしさっていうのが、北も南も両方共通して言えることなんですけど、ぜひぜひ考慮していただきたいなど。私たちもいろいろと考えながらしていきたいと思いますが、その点いかがですか。どこでもあるようなとか、やっぱり佐賀らしさっていう部分ですね、どうお考えか。

○池田佐賀駅周辺整備構想推進室副室長

何をもって佐賀らしさかっていうところが非常に議論になるところかなというふうに思います。で、私たちがずっと——私は役所に入って40年になるんですけど、ずっとあの駅

のところとかに関わってきたことがあったんですが、いろんな貰いものをしてですね、駅に置いてくれと、トンボのモニュメントを置いたこともありますし、何かそういうものの置き場にはなってほしくないなというところがありますので、やっぱり佐賀らしさということをきちっと、根本的に考えていくような——有識者会議の場がそういう場だというふうに思っていますので、その佐賀らしさについては、きちっと議論していきたいというふうに思います。

○山下伸二委員長

よろしいですか。

それでは、なければ、佐賀駅周辺整備事業についての質疑を終了いたします。

執行部の皆様は退席いただいて結構です。

お疲れさまでした。

◎執行部退室

○山下伸二委員長

お疲れさまでした。

それでは 2 番目の今後の特別委員会の開催等についてですけれども、次回の委員会につきましては、事業の進捗等を踏まえ、執行部と調整をした上で、改めてお知らせいたします。

なお、先ほど積み残しがありましたので、この報告を受けてですね、その件について特別委員会を開催することもあるかもしれませんので、改めて、皆さんのほうに連絡をさせていただきます。

それから、2 つ目なんですけれども、今日、その他の事項で県道佐賀停車場線について御報告をいただきました。これは、特別委員会の調査項目に入っていませんでしたので、今回はその他という項目で報告を受けさせていただいております。

ただ、先ほども説明がありましたとおり、今後南口と一体的に行っていくということですから、非常に重要ですので、佐賀停車場線の整備を本委員会の調査事項に追加してはどうかというふうに、正副委員長で話をさせていただいております。もし、これを特別委員会の調査項目に入れると、委員の皆さんは委員会が終わるまで、この件については一般質問ができなくなるという、これは佐賀市議会のこういった決まりがありますので、そういったことを踏まえて、みなさんからの御意見をお伺いしたいというふうに思うんですけれども。入れさせていただいてよろしいですか、項目として。

◎調査事項への追加及び行政視察について委員間討議

よろしいですか。

そうしましたら、これをもちまして第 7 回の佐賀駅周辺整備調査特別委員会を終了いたします。